

青少年のしろ

設立30周年記念号

第 26 号
 発行
 青少年育成能代市民会議
 事務局
 能代市日吉町9-5(〒016-0811)
 楠 清 孝
 電話 53-5341



子ども若者育成支援強調月間
JR能代駅前



心といのちを考えるフォーラム
会長 袴田俊英会長



ニツ井いとく店前にて



7月 街頭キャンペーン
イオンのしろ店前



市民集会にて
齊藤市長




11月 街頭キャンペーン
JR能代駅

盛大な結成総会が開催され、着実に歩みを続けてきた事になります。

能代市民会議は毎年の非行防止月間を七月・十一月に行い、その間「わたしの主張」などを中心に、青少年の心身の健全育成に会員が協力し合ってきた。乳児は肌をはなすな、幼児、少年、青年と対象年齢に応じて、目をはなすな、心をはなすなと見守り続け、近年は犯罪件数も際立って減少しています。かつて和田満春先生が言われた「寝ていても団扇の動く親心」の言葉は忘れられません。三十周年をスタート台にして、見守る姿勢から知らずに動く団扇のような心を持ち、手をとって歩いていきましよう。

年月の過ぎるのは早いと感ずるものですが、青少年育成能代市民会議が、三十周年を迎える事になりました。長寿社会の現代では三十年と言う数字は取るに足りないように思われるかも知れませんが、振り返ってみますと戦後を経て、青少年犯罪がピークであったのは、東京オリンピックの開催後、二、三年後のことでした。日本中がねつに浮かされたように建設ラッシュに沸き返り、子ども達への視線が届かなかつたように感じられました。政府も将来を託すべき青少年の育成は、何事にも優先されなければならぬ大事業に着手し、青少年育成国民会議が発足しました。県から各市、町、村に波及させ、国民の協力による事業へと発展しました。行政ベースで進められていたのが、民間にバトンが渡って三十年と言う年月になります。



青少年育成能代市民会議
会長 田中 仁純

「青少年のしろ」の発行にあたり

